

110 私たちの解放者イエス(1)

ヨハネによる福音書 8 : 31~50

31 イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。

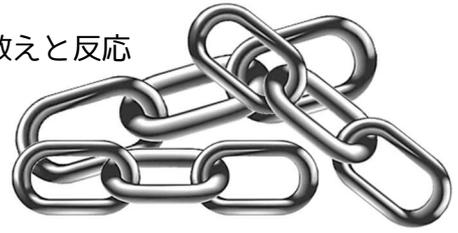
「わたしの言葉にとどまる (→信じ続ける) ならば、

① あなたたちは本当にわたしの弟子である。

32 ② あなたたちは真理を知り、

③ 真理はあなたたちを自由にする。」

教えと反応



→“If you hold to my teaching, ① you are really my disciples. 32 Then ② you will know the truth, and ③ the truth will set you free.” (NIV)

→“If you abide in My word, ① you are My disciples indeed. 32 And ② you shall know the truth, and ③ the truth shall make you free.” (NKJV)

→真理 (回復訳解説を参考)

真理とは、教理上の真理ではなく、神聖な事柄の実際 (事実)、すなわち主ご自身です。 → 真理=主

この節では、「真理はあなたたちを自由にする」とありますが、後述の 36 節では、「子があなたたちを自由にすれば」と記されています。このことから、真理=子 (御子) となります。 →→→ 真理=御子

→ヨハネによる福音書 14 : 6a

イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。 →→→ 真理=主=御子=道=命

33 すると、彼ら (ユダヤ人たち) は言った。「わたしたちはアブラハムの子孫です。今までだれかの奴隷になったことはありません。『あなたたちは自由になる』とどうして言われるのですか。』

→神がアブラハムを選んだので、アブラハムの子孫であるユダヤ人たちは神に特別に選ばれていると信じていた (創世記 12 : 1~3、15 : 1~6、17 : 1~8)。ユダヤ人たちはかつてエジプトで奴隷状態にあり (出エジプト 1~14 章)、その後、アッシリア、バビロン、ペルシア、そして当時はローマ帝国に支配されていた。それでも彼らはアブラハムの子孫であるから誰にも隷属されないと信じていた。

Ⓢユダヤ人たちは、イエスが罪と悪魔の奴隷について述べている (次節) ことに気付かず、奴隷という言葉、政治的なものに誤解し、しかも、プライドから来た、間違った奴隷の歴史観を述べている。

34 イエスはお答えになった。

「はっきり言っておく。罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である。35 奴隷は家にいつまでもいるわけにはいかないが、子はいつまでもいる (奴隷の身分は保証されていないが、息子の身分は保証されている)。

→ (リビング・バイブル) 教えてあげましょう。あなたがたは一人残らず罪の奴隷なのです。奴隷には (ずっと家族と一緒に居られるという) 何の権利もありません。しかし、主人の息子は (奴隷とは違い) 別です。息子はありとあらゆる権利を持っています。

36 だから、もし子 (=イエス) があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる。

37 あなたたちがアブラハムの子孫だということは、分かっている。だが、あなたたちはわたしを殺そうとしている。わたしの言葉を受け入れないからである。

38 わたしは父 (なる神) のもとで見たことを話している。ところが、あなたたちは父 (、つまり、悪魔) から聞いたことを行っている。」

39 彼らが答えて、「わたしたちの父はアブラハムです」と言うと、イエスは言われた。

「アブラハムの子なら、アブラハムと同じ業をするはずだ。40 ところが、今、あなたたちは、神から聞いた真理をあなたたちに語っているこのわたしを、殺そうとしている。アブラハムはそんなことはしなかった。41 あなたたちは、自分の父 (=悪魔) と同じ業をしている。」

そこで彼らが、「わたしたちは姦淫によって生まれた（偶像礼拝の民な）のではありません。わたしたちにはただひとりの父がいます。それは神です」と言うと、

42 イエスは言われた。

「神があなたたちの父であれば、あなたたちはわたしを愛するはずである。なぜなら、わたしは神のもとから来て、ここにいるからだ。わたしは自分勝手に来たのではなく、神がわたしをお遣わしになったのである。43 わたしの言っていることが、なぜ分からないのか。それは、わたしの言葉を聞くことができないからだ。44 あなたたちは、悪魔である父から出た者であって、その父の欲望を満たしたいと思っている。悪魔は最初から人殺しであって、真理をよりどころとしていない（→真理に立ってはいません）。彼の内には真理がないからだ。悪魔が偽りを言うときは、その本性（ほんしょう→新共同訳では「ほんせい」となっているが誤りで、聖書協会共同訳では「ほんせい」に訂正されている）から言っている。

（なぜなら）自分が偽り者であり、（また）その（偽りの）父だからである。

→悪魔：偽りの父、真理を否定する者、人殺し（イエスを殺そうとしている）

→本性：①ほんしょう：本心、生まれつきの性質、本来の性格

②ほんせい：本来の性質、天性（天から受けた性質）、

45 しかし、わたしが真理を語るから、あなたたちはわたしを信じない。46 あなたたちのうち、いったいだれが、わたしに罪があると責めることができるのか。わたしは真理を語っているのに、なぜわたしを信じないのか。47 神に属する（→神から出た）者は神の言葉を聞く。あなたたちが聞かないのは神に属していないからである。」

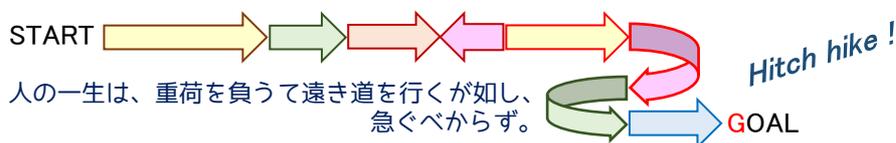
48 ユダヤ人たちが、「あなたはサマリア人で悪霊に取りつかれていると、我々が言うのも当然ではないか」と（罵倒して）言い返すと、

49 イエスはお答えになった。

「わたしは悪霊に取りつかれてはいない。わたしは父を重んじているのに、あなたたちはわたしを（卑しめ）重んじない。

50 わたしは、自分の栄光は求めていない。わたしの栄光を求め、裁きをなさる方が、ほかにおられる。

→（リビング・バイブル）しかし、わたしは栄誉を求めているのではありません。ただ、わたしに栄誉を与えたいと願っておられる神が、わたしを受け入れない人々をおさばきになるのです。



人の一生は、重荷を負うて遠き道を行くが如し、急ぐべからず。
不自由を常と思へば不足無し、心に望み起こらば、困窮したる時を思ひ出すべし。
堪忍は無事長久の基、怒りは敵と思へ。
勝つ事ばかり知りて、負くる事を知らざれば、害其身に至る。
己れを責めて人を責むるな、及ばざるは過ぎたるより勝れり。

家康遺訓

【参考】真理はあなたたちを自由にする VERITAS LIBERABIT VOS

「真理」(→ギリシア語でアレテア alētheia=何も隠さないこと、ヘブライ語でエメト emeth=堅固、不変性、持続) は、多くの人々が長い歴史の中でそれは真実であると考えられる知識あるいは価値体系を言います。聖書に書かれている事柄は「真実」であり、その中で教えられている内容は「真理」であり、今も昔も、多くの人々に受け入れられています。そして、他からの要求、友達や家族等の要求から自由になること、自分自身から自由になることが人間にとって最も幸いなことだと聖書は教えています。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 7 / 聖句等の総数 33250 <真理>8個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 真理]
K 箴言	23:23 真理を得よ、知恵も諭しも分別も手放すな。 Buy the truth and do not sell it—[wisdom], [instruction] and [insight] as well.	
S ヨハネによる福音書	8:32 あなたたちは真理を知り、 <u>真理はあなたたちを自由にする。</u> VERITAS LIBERABIT VOS(ラテン語) 真理=イエス・キリスト	
S ヨハネによる福音書	14:6 イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。 I am the way and the truth and the life. No one comes to the Father except through me.	
S エフェソの信徒への手紙	4:15 むしろ、 <u>愛に根ざして真理を語り</u> 、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。	
S エフェソの信徒への手紙	4:24 神にかたどって造られた新しい人を身に着け、 <u>真理に基づいた正しく清い生活を送る</u> ようにしなければなりません。	
S エフェソの信徒への手紙	6:14 立って、 <u>真理を帯として腰に締め</u> 、正義を胸当てとして着け、(6:15 平和の福音を告げる準備を履物としなさい。)	
S テモテへの手紙 I	2:4 <u>神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。</u>	

▶神から出る知恵は、絶えず公平と真理を告げる。正義と公正をもって人に接することが知恵ある生き方であり、律法が命じる生き方である。

→正義: 正しい筋道、公正: 公平で不正(邪曲)のないこと。

→諭しを受け入れて/正義と裁きと公平に目覚めるため(箴言 1:3)。

▶イエス・キリストの御言葉に留まり続けるならば、私たちは真理であるイエス・キリストを知り、イエス・キリストは私たちを真実に自由な人間にしてください。

→真理はあなたたちを自由にする=VERITAS LIBERABIT VOS(ラテン語、ウェーリタース=真理・リーベラービット=自由にする、解放する・ウォース=あなたたち)⇒イエス・キリストは私たちを自由にする。

▶イエス・キリストは、イエスご自身そのものが、神の真理を学び、神と共にある命を見出すための道であると主張している。

▶イエス・キリストはすべてのものの上にある頭(かしら)であり、教会の頭である。

▶兵士の帯は皮などで出来た幅が広いもので、体を保護し、装備品を取り付けられるように仕立ててあった。神の真理がキリスト者を取り巻くように、帯は兵士の体に巻き(帯=神の真理)、胸当ては、喉や心臓、肺を覆った。兵士の履物は底にスパイクを打ち付けた革製のサンダルの為、動きにくかった。

【参考】ユダヤの歴史

バビロニアおよびペルシアの王・在位等に関する相関歴史年表（期間：BC634年～BC424年）

BC634	▶▶	👤	ネブカドネツアル2世出生（父：バビロニア王国の建国者ナボポラツサル王）
626			神がバビロンに与えた役割は、ユダヤ人たちの偶像礼拝の罪を裁くことだった。バビロン捕囚以降、ユダヤ人たちが民族的に偶像礼拝の罪に陥ることはなくなった。バビロン帝国がその役割を終えると、ペルシア帝国が興り、バビロンを滅ぼした。
625	▶▶	👤	バビロニア王国建国 (バビロン帝国・カルデア王国)
			ナボポラツサルによりメソポタミア南部のバビロニア(カルデア)を中心に建国(BC625)され、アケメネス朝ペルシアのキュロス2世によって征服(BC539)されるまで、地中海沿岸地域に至る広大な領土を支配した帝国
612	▶▶		アッシリア王国滅亡：バビロニアとメディアの連合軍によって首都ニネベを占領され、滅亡。 (ゼファニア書2：13)
606		👤	ナボポラツサル王死去(BC605)に伴い、
605	▶▶	👤	ネブカドネツアル2世即位（バビロニア王国の第2代王、在位：BC605～BC562）
604			→ユダの王ヨヤキム（在位：BC609～598）が即位して三年目（→BC606）のことであった。
603			バビロンの王ネブカドネツアルが攻めて来て、エルサレムを包囲した（ダニエル書1：1～6）。
602			→ダニエル、バビロンに捕囚となる（→第一次バビロン捕囚：BC605）。
601			→アッシリア帝国、BC722年に北のイスラエル王国を滅ぼす。
600			ユダ王国はアッシリアに服属する形で存続していたが、BC609年にメギドの戦いの敗北でエジプトの支配下に、
599			BC597年にネブカドネツアル2世の前にユダ王国も屈した（→第二次バビロン捕囚：BC597）。
563		👤	ペルシア、キュロス2世出生(?)→父：キュロス1世の子、カンビュセス1世、母：マンダネ (在位：BC640～BC580)(在位：BC580～BC559)
562	▶▶	👤	ネブカドネツアル2世死去
561	▶▶	👤	アメル・マルドゥク即位（バビロニア王国の第3代王、在位：BC562～BC560）
560	▶▶	👤	メルナクパル即位（バビロニア王国の第4代王、在位：BC560～556）
559	▶▶	👤	ペルシア、キュロス2世即位（アケメネス朝ペルシアの初代国王、在位：BC559～BC530）
558	▶▶	👤	メルナクパル即位（バビロニア王国の第4代王、在位：BC560～556）
557	▶▶	👤	ラバシ・マルドゥク即位（バビロニア王国の第5代王、在位：BC556）
556	▶▶	👤	ナボニドス即位（バビロニア王国最後の王、在位：BC555～BC539）
555			
554			
553			
552			
551			
550	▶▶	👤	ダレイオス1世出生（BC550頃）
549			小王国アンシャン第7代王キュロス2世がメディア王国を滅ぼし、アケメネス朝を建国。
540			→メディア、ペルシアの属州となる（BC549）。
539	▶▶	👤	ナボニドス（バビロニア王国最後の王）死去(?)、👤ベルシャツアル死去
538			バビロニア王国滅亡／バビロン陥落（BC539）（ダニエル書5：30）
537			ペルシア軍により捕らえられた父ナボニドスが特赦されたのとは異なり、
536			ベルシャツアルはバビロン陥落の夜に殺された。
535			BC539、ペルシア（アケメネス朝）のキュロス2世は、新バビロニア王国を滅ぼし、バビロン捕囚も終焉させた。
534			→ペルシア帝国の役割は、ユダヤ人を捕囚の地から帰還させ、国の再建を促すことであった。
533			BC331、ダレイオス3世（BC336～330）の時、ギリシア北部山岳地帯マケドニアのアレクサンドロス3世（大王）により敗れ、
532			ペルシアは滅亡した。
531			→ペルシア帝国もまた、その役割を終えると、歴史の表舞台から消えた（ダニエル書2：31～35）。
530	▶▶	👤	キュロス2世死去
529	▶▶	👤	カンビュセス2世即位（在位：BC530～BC522）